

2022.12.28

第8回副首都推進本部（大阪府市）会議

参考資料 1

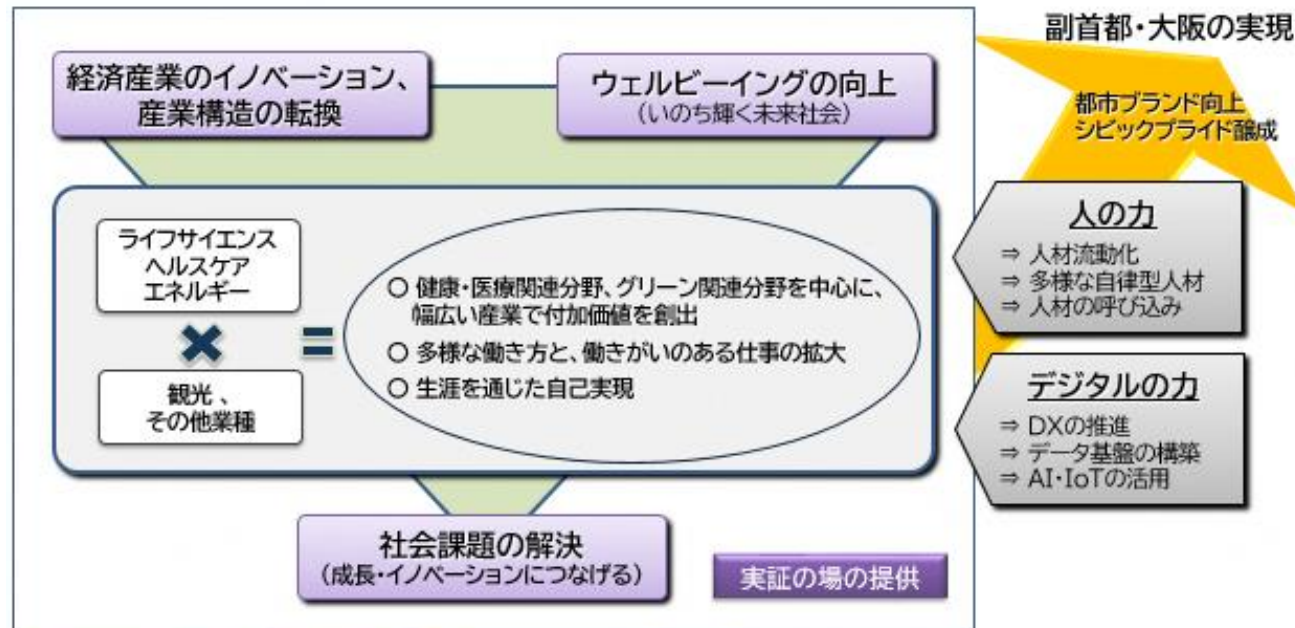
中間論点整理後の議論

大阪府・大阪市 副首都推進局

■ 中間論点整理のポイント（振り返り）

- ◆ 大阪のめざす副首都の言わば「核心」が経済的副首都の実現であることを改めて明確化
- ◆ 海外都市の戦略に学び、世界を視野に成長していくことが重要
- ◆ 経済的副首都の実現に向けて、未来を担う若者を起点に考えることが重要
- ◆ 近年、とりわけコロナ拡大後の若者を中心とした意識の変化などを踏まえ、「経済産業のイノベーション、構造転換」、「ウェルビーイングの向上」及び「社会課題の解決」を一体と捉えて進めていく 『副首都・大阪の経済モデル』を構築
- ◆ 大阪・関西の強みであるとともに、大阪・関西万博に向けて、ウェルビーイングや社会課題と親和性が高いライフサイエンス・ヘルスケアとエネルギーの二つを基軸に、観光はじめ他の分野とかけ合わせることで、成長を実現
- ◆ 経済モデルでは、全国に先駆けた、東京にできない実証の場をめざす
- ◆ 経済モデルを支える基盤部分として、とりわけ『人の力（人的基盤）』と『デジタルの力（DX基盤）』を重視

■ 副首都・大阪の経済モデル（イメージ）



■ 中間論点整理後の議論について

- 中間論点整理において改めて深掘りすることとしていた点や、中間論点整理に関して前回（9月29日）の副首都推進本部（大阪府市）会議やその後の府議会・市会においていただいた意見を踏まえ、主に以下の内容について、議論を進めてきた。

中間論点 整理後の 議論

○副首都を支える都市機能をどのように考えるか。

○副首都を支える行政の仕組み・国との関係をどのように考えるか。

○分かりやすさを含めて、目標設定をどのように考えるか。

■ 中間論点整理後の議論の概要①（副首都を支える都市機能についてどのように考えるか）

- 中間論点整理の考え方を踏まえると、内外から人や企業を惹きつけていくために必要な都市機能については、「**チャレンジを後押しする機能**」、「**ウェルビーイングを高める機能**」、「**都市を支えるベーシックな機能**」という柱建てのなかで考えていくのがよいのではないかと。

※意見交換会で出た機能のイメージ（例）

「チャレンジを後押しする機能」

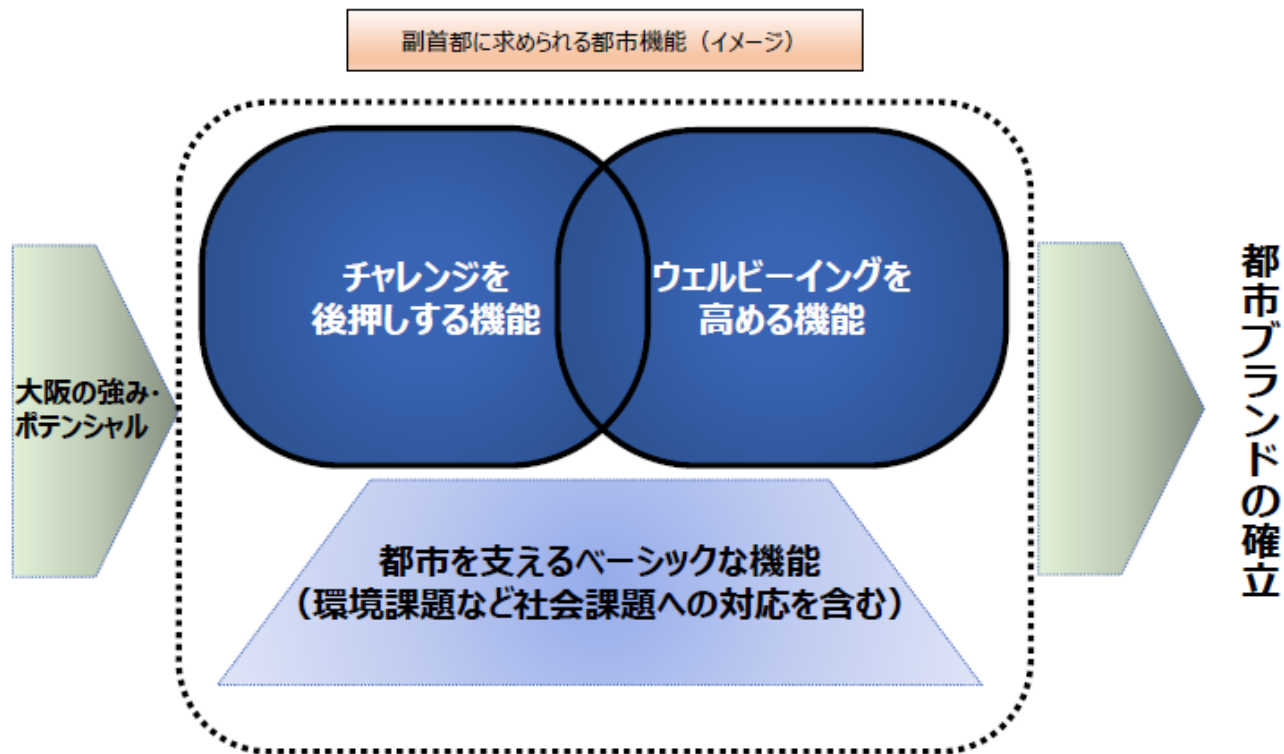
創業・事業化促進、ビジネスの共通基盤の整備、交流の場の提供、地域と一緒にサービスを育てるリビングラボ機能、優秀な人材の確保、実証の場など

「ウェルビーイングを高める機能」

学び・働きながら生活を享受できる機能、文化に触れられる都市環境、公共交通機関の利便性、コンパクト・プラス・ネットワークによる職住遊近接などの住みやすさなど

「都市を支えるベーシックな機能」

シティズンシップ教育や環境教育をはじめとする学べる環境、サーキュラーエコノミー、社会課題をビジネスとする企業創出、地域のネットワークや人をつなぐ機能など



■ 中間論点整理後の議論の概要②（副首都を支える行政の仕組みや国との関係をどのように考えるか）

● 「府市一体となった取組」

まず府市一体で成長の核を担っていくことが重要。そのうえで、これまで取り組んできた統合機関のさらなる機能強化などに加え、新たな政策の一体化を進めていくことが必要ではないか。

● 「府域全体」

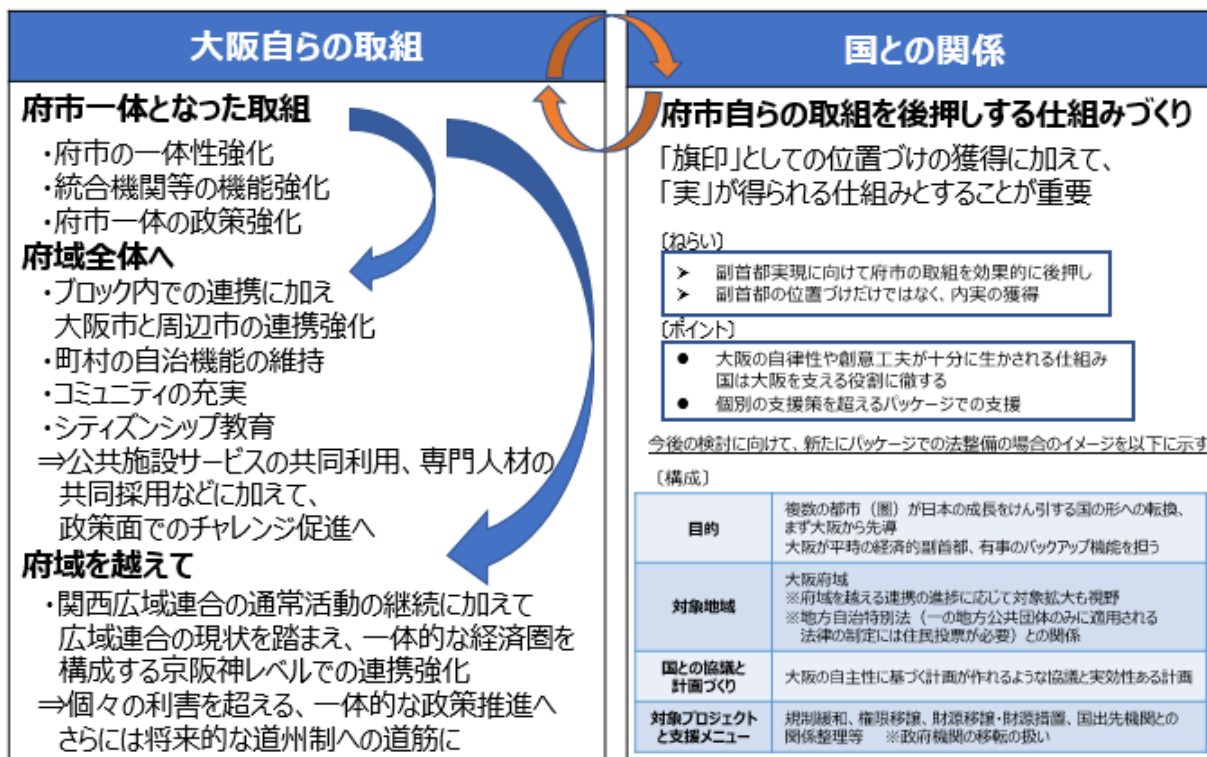
例えば、行政計画の共同策定や窓口の遠隔地連携など、幅広く新たな連携を考えていくとともに、成長の波及効果を広げていく観点から、大阪市と周辺市の連携強化を考えていくべきではないか。
また、町村に対する大阪府による垂直補完、政令市と町村との水平連携などを考えていくとともに、府域全体で、まちの特色を生かした地域のウェルビーイングを高める取組が必要ではないか。

● 「府域を越えて」

関西広域連合の従来の取組に加え、府域を越えて経済圏が広がるなかでの産業への一体的な支援体制、道州制を視野にした動きなど、広域連携の強化が必要ではないか。

● 「府市自らの取組を後押しする仕組みづくり」

国との関係について、位置づけだけでなく自立性を高める支援や、権限・財源の移譲、規制改革も含めたパッケージでの支援を求めること、また、現行法を汎用性ある仕組みとしていく提案などが必要ではないか。



■ 中間論点整理後の議論の概要③ (副首都をめざすにあたっての目標設定等をどのように考えるか)

- 経済的副首都をめざすのであれば、**経済に関する指標を包括するような目標**を考えていくべきではないか。また、**成熟した経済システム**を持っているところが経済的副首都といえるのではないか。
- 中間論点整理の考え方を踏まえると、経済のほか、**ウェルビーイングに関する目標**を置いたほうがよいが、設定の仕方が難しい。客観的なものでいうと、転入者数、地元就職率、雇用、所得などが考えられるが、いずれも包括したものにはなり得ないので、精度は低いが、主観的なものとして、**住民の満足度調査**を行うことが考えられるのではないか。
- 今生まれた人が成人になる年などを考えると、**長期的には2040年、2050年あたりを目標年次とし、短期的に2025年、2030年というプロセス**を踏めばよいのではないか。

■ 意見交換会で議論のベースにした目標イメージ

視点	そのために何を測るのか	目標イメージ	視点	そのために何を測るのか	目標イメージ	
経済	経済における大阪の「存在感」を測る	GDP (実質成長率、名目値、シェア等) 来阪観光客数	ウェルビーイングの向上	府民の暮らしの安定度や生活の質を測る	雇用 (創出数、就業率、失業率等) 所得 (雇用者報酬、可処分所得等) 世帯年収 (中間層、低所得層割合等)	
	「イノベーション」などによる生産性の向上度を測る	生産性 (全要素生産性(TFP)上昇率、労働生産性等)		府民の健康状況を測る	平均寿命、健康寿命	
	人材の流動状況を測る	転職率		女性の活躍度合、活躍環境を測る	ジェンダーギャップ指数 (男女の賃金格差、女性の就業率、女性の正規雇用比率等)	
	大阪への人・若者の呼び込み状況を測る	転入者数 (社会増、自然増、年代別等)		府民の (主観的な) 心の豊かさを測る	府民幸福度、生活満足度	
	新たな「チャレンジ」の動きを測る	起業 (開業率・起業率、起業者数等)		本社所在地別の新規上場数	文化芸術体験の充実度を測る	劇場、音楽堂、博物館の数
		ユニコーン企業の創出数、スタートアップ資金調達額		人口一人当たりGDP	大阪の住みやすさを測る	住みたいまちランキング ※英エコノミスト
	大阪の「稼ぐ力」を測る	第3次産業の割合		DXの推進度合、データ基盤の整備状況、AI、IoTの活用状況を測る	スマートシティランキング ※IMD国際経営開発研究所	
	産業構造転換度合・柔軟性を測る					
社会課題の解決	社会課題の解決度合を測る	SDGsの大阪の重点ゴールの達成	【シビックプライドの醸成】			
	脱炭素に向けた状況を測る	カーボンニュートラル達成、カーボンネガティブ実践	● 府民の共感度を測る (副首都認知度：府民アンケート)			
	大阪の教育力を測る	全国学力・学習状況調査	● 府民の大阪への愛着度を測る (府民愛着度：府民アンケート)			
	大阪の安全度 (治安) を測る	人口一人あたり刑法犯認知件数、世界安全なまちランキング				

■ 将来に予定される主な出来事

